

ツールド熊野



プロローグ、タイムトライアルのスタート。

皆さん、熊野というところをご存知でしょうか？

そう、三重県と和歌山県の県境・紀伊半島の南東端に位置しているところです。現在、有名なのは熊野古道ですね。世界遺産にも登録されたところです。熊野本宮大社に至る参拝道を熊野古道と呼び、熊野本宮大社に至るのですが、その熊野の地を舞台に行われる自転車のステージレースが、今回の訪問先であるツールド熊野です。

訪問していただいたのは、和歌山支部の支部長を務められている西野卓也支部長です。



監督会議。監督達がレースでの注意事項の確認、質問等をする。



同じく監督会議。今回の審判長はタイの方。



ホンコンチャイナチーム。今年のトラック世界選クラッチの優勝者コーホーティン。



田岡新宮市市長の開会挨拶



スタート前のスタート台を見る西野支部長。

は、熊野の地から自転車文化の定着を大きな目標に掲げ、自転車レースの普及、活性化、また、地域活性化を目的に行われています。歴史ある風光明媚な地を巡るこの大会は、昨年、アメリカの自転車雑誌にも取り上げられたほどの美しいコースでもあります。

このレースは、日本でも数少ない国際大会で、出場チームは17チームの内、海外からの出場チームは、5チーム、また参加選手は約100名と規模的にも大きな大会です。大会はプロローグの個人タイムトライアルからスタートし、4日間行われます。

プロローグのタイムトライアルは川沿いのコース、700m。第1ステージは、熊野本宮大社の近くのコースで行われ、1周16.3kmを7周回、114.1kmで競い合います。第2ステージは三重県の熊野市で行わ

れ、有名な千枚田を走る厳しい山岳ステージで、109.3kmです。第3ステージは、舞台を捕鯨で有名な太地町を走るコースで、1周10kmを10周100kmを競い合うステージです。

西野支部長に見学していただいたのは、初日の模様で、レース前に行われた監督会議と、初日のプロローグの個人タイムトライアルでした。

西野支部長は、時間の都合上、第1ステージ以降が見られなくて、非常に残念だと言われたのが印象的でした。競輪補助事業は、このようなレースをサポートし、自転車地域活性、また自転車文化の定着等にも大きな貢献をしているのです。西野本部長のインタビューは41ページに掲載しています。